

[投稿]

国際委員会活動報告

国際委員会委員長 嘉門雅史 Masashi KAMON

フェロー会員 工博 京都大学教授 防災研究所

国際委員会幹事長 藤野陽三 Yoza FUJINO

フェロー会員 Ph.D 東京大学大学院教授 工学研究科社会基盤工学専攻

はじめに

土木学会には国際戦略が全く欠如している，すなわち，20世紀末のグローバル化の大波の中で，わが国土木建設界の中のリーディング学会としての土木学会が，本来の役割を果たし得ていないという厳しい指摘を受けて約10年が経過した．

これを受けて，現在では土木学会の国際部を中心としてその活動強化が図られ，二国間相互交流としての海外学協会との協定を始めとして，多国間ネットワークの策定のためのアジア土木学協会連合協議会（ACECC と略称する）の結成や英文論文集の重点的な刊行計画の検討など，数多くの活動が学会の総力を挙げてなされつつある．国際委員会はその先鋒としての役割を果たすべく努力を傾注し，機会あるごとに学会誌などで報告しているが，多くの土木学会会員の方々への十分な広報という視点では必ずしも成功していない．真の意味で土木学会が国際化を遂げるためには，国内外の土木学会会員諸氏の絶大なご支援が必要だけでなく，会員諸氏の国際委員会を始めとする，各種の国際活動内容に対するご意見とご批判が欠かせない．

ここに最近の国際委員会活動を報告し，会員各位のご批判をお願いするものである．

学会定款などの英文化と海外支部創設

土木学会の存在の基本である土木学会定款と細則に関して，英文条項がこれまでなかったことの反省に基づき，2001年1月の理事会で正式に英文化を行った．これによって英語圏の土木技術者へ，わが国の土木学会の有り様を示すことができるようになった．また，従来は海外在住の土木学会会員は自動的に関東支部に属すものとされていたが，これを機会に海外支部が創設され（2000年7月理事会承認），今後は国際部を通じて海外在住会員へのサービス強化を図ることになった．海外支部には国ごとに分会を設置することが認められており，設置のためのガイドラインに基づいて2000年4月に台湾分会が，2000年7月に韓国分会が創設された．海外支部の主体的活動がこれら分会に依存していることから，会員の組織化を積極的に推進し，セミナーの開催や情報サービスを始め，日本からの人的派遣等多角的経営を実施することになっている．

海外学協会との協定・交流

多くの海外の国々における土木関係の学協会との協定に基づいて，表-1に示すような16の海外学協会との相互交流を行っている．2000年9月に東北大学で開催された全国大会には，韓国土木学会（KSCE），台湾土木学会（CICHE），シンガポール工学会（SIE）から代表者の参加を得て，ラウン



全国大会でのラウンドテーブル

表-1 海外協定学協会と締結年月のリスト

1. American Society of Civil Engineers, USA., 1988.10
2. The Canadian Society for Civil Engineering, Canada, 1988.8
3. Korean Society of Civil Engineers, Korea, 1989.11
4. The Institution of Engineers, Australia, Australia, 1990.4
5. Swedish Society of Civil and Structural Engineers, Sweden, 1990.10
6. The Institution of Civil Engineers, UK, 1991.5
7. Chinese Institute of Civil and Hydraulic Engineering, Taiwan, 1992.5
8. Conseil National des Ingenieurs et des Scientifiques de France, France, 1993.6
9. Philippine Institute of Civil Engineers, Inc., Philippine, 1997.2
10. The Mexican Federation of Civil Engineers Institutions, Mexico, 1998.11
11. European Council of Civil Engineers, EU, 1999.1
12. China Civil Engineering Society, China, 1999.5
13. The Engineering Institute of Thailand, Thailand, 1999.8
14. The Institution of Engineers, Singapore, Singapore, 1999.8
15. The Institution of Engineers, Bangladesh, Bangladesh, 2000.2
16. Vietnam Institute of Engineers, 2000.4

ドテーブル討論会を開催して相互の意見交換を行うとともに，今後の共同研究の可能性等を議論した．また，この機会を捉えて海外支部会議を開催したところ，韓国と台湾分会から分会長を始め関係者の参加を得た．

海外交流では何とんでも米国土木学会（ASCE）との関係が重要であることから，土木学会では1992年から連続的



第2回国際サマーシンポジウム

に会長をはじめ数名の代表者を ASCE 大会に派遣をしてきた。平成 12 年度はワシントン州シアトル市で開催された ASCE 大会へ、鈴木道雄会長はじめ数名が派遣され、わが国土木技術の紹介のための国際セッションの開催や、展示ブースへの参画などを行った。また、近隣諸国の学協会との関係も ASCE との関係に劣らず重要であることから、平成 12 年度は韓国土木学会年次講演会と台湾土木学会総会へ代表者を派遣し、交流会や研究討論会へ参加して技術交流を行った。先の海外支部分会の発足式には土木学会本部から会長を始め代表者の派遣を行って、今後の協力を約束した。

留学生への対応

海外から土木工学に関係する日本の大学などへの留学生を、土木学会会員に集約することには現在に至るも十分な成功を見ていない。単に会費が高いといった資金的な問題だけでなく、会員になることのメリットを留学生に十分示していないことが最大の理由であると考えられる。この隘路を切り開くために平成 11 年度から国際サマーシンポジウムを開催している。毎年開催するものとし、平成 12 年度は東京工業大学で第 2 回国際サマーシンポジウムを開催したところ 100 編の研究発表があり、そのうちの優秀発表 18 編について表彰を行った。なお、第 3 回は東京大学工学部において本年夏に開催の予定である。留学生のみならず、一般会員にとっても参加する意義のあるようなシンポジウムを計画している。

また、インターネット会員といった制度を新たに設けることによって、留学生や外国人研究者の土木学会への積極的参加を得る方策も考えていきたい。

広報活動

英語による情報発信を充実することが最も重要な課題の一つであると位置付けている。国際委員会では平成 11 年度から“News Letter”を発行しており、現在 5 号の発刊の準備中である。

海外からのアクセスとしては英文ホームページの充実が急務の課題と考えている。学会論文集をはじめとする刊行物の英文アブストラクトなど技術情報を継続的に掲載し、また海外からの技術情報に関する窓口としてテクニカルインフォメ



News Letter第3号

ーションサービスなどの実施に向けて動いている。テクニカルインフォメーションサービスとは、ボランティア会員が海外からの土木技術に関する問い合わせに対して答えるものである。いずれ会員にもテクニカルインフォメーションサービスへの登録を呼びかける予定である。平成 13 年度中には、内容の更新速度をタイムリーにした英文ホームページをお届けできるものと考えている。

おわりに

平成 12 年度における国際委員会活動を中心に報告したが、ACECC や第 2 回アジア土木技術国際会議 (2nd CECAR) は、基本的に土木学会内に設けられた土木技術推進機構が取扱うことになっており、国際委員会からもメンバーが重複してこれらに貢献している。なお、2nd CECAR は ACECC の主催のもと、本年 4 月 16 日から 18 日まで東京都内メトロポリタンホテルにて開催されることになっており、多くの土木学会会員の参加をお願いするところである。

以上の活動が、当初に述べた土木学会の国際戦略の構築にどのように貢献しているかの評価には、今しばらくの時間を頂戴したいと考えている。今後はこれらの活動をさらに深化させねばならないとともに、有機的に関連させて、しかも長期にわたる継続的活動へと移行しなければならない。そのためには人的なパイプの補強が必須である。会員各位のご理解とご支援をお願いするものである。

(2001年1月11日・受付)